

第6節 既刊文献より作成した軍事施設・配備部隊一覧

表2 既刊文献より作成した軍事施設・配備部隊一覧表

古仁屋地区

所在集落	所在地詳細	部隊	施設	備考	文献初出年	典拠
阿木名		暁部隊(陸軍)		糧秣倉庫管理ほか	昭和20年度	①
阿木名		防衛隊(現地召集)		各部隊に配属・陣地構築ほか	昭和20年度	①
阿木名		海軍防備隊				⑩
阿木名		海軍航空隊基地阿木名派遣隊				⑩
阿木名		第2740部隊(40部隊)				⑩
阿木名		独立混成第22連隊第3大隊		田村隊		⑩
阿木名			隠蔽壕		昭和19年度	①
阿木名	海岸線一帯		対戦車壕陣地		昭和19年度	①⑩
阿木名			糧秣倉庫	海軍部隊非常用	昭和19年度	①
阿木名	海岸・山腹		迎撃陣地	将兵約100名	昭和20年度	①
阿木名	後方山頂		複郭陣地	陸・海・空最後の砦として構築	昭和20年度	①
阿木名			機銃陣地			⑩
阿木名			砲台			⑩
阿木名	集落から1時間ほどの山中		無線基地			⑬
阿丹花崎			見張所	海軍所屬	昭和19年度	①⑩⑭
阿丹花崎			機銃陣地			⑩
阿鉄		海上挺進基地第11大隊の一部		隊長石川芳春陸軍少尉以下47名	昭和20年3月15日配備	①②⑤⑬
阿鉄		海上挺進基地第29大隊の一部		球第15066部隊・隊長卓野義雄陸軍中尉	昭和20年3月15日配備	①②⑤⑬
阿鉄		海上挺進第29戦隊		球第19768部隊・隊長山本久徳陸軍大尉・隊員88名(戦隊41名・整備隊47名)昭和20年10月26日に広島県宇品にて編成、昭和20年1月18日に宇品より沖縄に向け出航、天候悪化により奄美大島へ寄航。沖縄への航行不能となったため3月15日阿鉄に基地をおく。出撃待機のまま終戦。(典拠⑨)	昭和20年3月15日配備	①②⑤⑩⑬
阿鉄		海上挺進第29戦隊第2中隊		中隊長重田正陸軍中尉以下41名・マルレ特攻艇40隻	昭和20年3月15日配備	①②⑤⑩
網野子	海岸一帯		迎撃散兵壕		昭和19年度	①
伊須		防衛隊(現地召集)		監視・連絡・陣地構築	昭和20年度	①
伊須			迎撃陣地	米軍の上陸への備え	昭和20年度	①
伊須	伊須湾奥、阿木名川上流		複郭陣地	須手配備の第951海軍基地航空隊古仁屋派遣隊が構築	昭和20年6月	⑤
伊須			カノン砲陣地			⑩
伊須			散兵壕			⑩
ウラソコ			軍用棧橋	皆津崎砲台陣地との連絡用	大正10年度	①
ウラソコ	海岸・山腹一帯		迎撃陣地	米軍上陸への備え	昭和20年度	①
皆津崎		奄美大島要塞重砲兵連隊第2大隊		隊長岩本陸軍少佐	大正10年度	①
皆津崎		奄美大島要塞重砲兵連隊第2大隊第6中隊		中隊長丸子正一陸軍中尉	昭和16年10月ごろ配備	①②
皆津崎		奄美大島要塞重砲兵連隊第4中隊		中隊長桑久保邦男陸軍大尉・野砲4門・昭和17年9月24日の奄美大島要塞重砲兵連隊の部隊縮小後の配備	昭和17年9月配備	①②⑤
皆津崎		海軍防備隊派遣隊		将兵約20名	昭和20年度	①
皆津崎		ウラソコ海軍電波探知機隊		約60名		⑩
皆津崎		要塞野砲隊		八木隊		⑩
皆津崎			皆津崎第1砲台	24cm榴弾砲4門	大正10年11月着工	①②⑤⑦
皆津崎			皆津崎第2砲台	15cmカノン砲4門・観測所・弾薬庫・繫船場・監守衛舎など(典拠⑦)・ただし「皆津崎砲台」の装備として)	大正10年11月着工	①②⑤⑦
皆津崎			弾薬庫	弾薬庫2箇所	大正10年度	①⑩
皆津崎			掩蓋式観測所	典拠①では「監視所」、正式名称「掩蓋式観測所」(篠崎達男氏より徳永茂二氏宛書簡による)	大正10年度	①
皆津崎			軍道		大正10年度	①⑩
皆津崎			兵舎		大正10年度	①⑩
皆津崎			砲台監守衛舎	木造1棟、陸軍曹長勤務	大正10年度	①
皆津崎			カノン砲陣地			⑩

皆津崎			官舎			⑩
皆津崎			機銃陣地	約15名		⑩
皆津崎			探照灯			⑩
勝浦	山腹・山頂付近		迎撃陣地		昭和19年度	①
勝浦	海岸線一帯		対戦車壕		昭和19年度	①
勝浦	海岸線		散兵壕			⑩
嘉鉄	海岸・山腹一帯		迎撃陣地	米軍上陸への備え	昭和20年度	①
嘉徳	鳥の峰山	陸軍対空監視隊		兵員約10名	昭和20年度	①⑩
嘉徳			迎撃陣地		昭和20年度	①
嘉徳			散兵壕		昭和20年度	①
久根津			海軍航空隊秘密基地	瑞雲水上爆撃機待機繋留	昭和19年度	①②⑩
久根津			兵舎	搭乗将兵宿泊用	昭和19年度	①⑩
小名瀬			特攻艇繋留基地	阿鉄挺進第29戦隊所属艇約30隻	昭和20年度	①⑩
古仁屋		陸軍築城部奄美大島支部			大正9年10月開庁	①⑤
古仁屋	現古仁屋高校敷地	奄美大島要塞司令部		要塞司令官井上二一陸軍大佐	大正12年4月開庁・昭和19年5月廃止	①②④⑤⑩⑬⑭
古仁屋		奄美大島要塞重砲兵連隊		西部第2740部隊、連隊長宮内陽輔陸軍大佐、2個大隊6個中隊の甲編成、現役兵と予備兵の混合部隊、総員約1400名(典拠②)・昭和19年5月15日に「重砲兵第6連隊」に改称	昭和16年9月編成	②④⑤⑩⑭
古仁屋		奄美大島要塞憲兵古仁屋分遣隊		隊長中條好憲兵少尉(典拠①)・志賀憲兵上等兵(典拠⑤)	昭和16年9月編成	①②④
古仁屋		軍令憲兵奄美派遣隊		要塞司令部内駐屯	昭和16年度	①
古仁屋		憲兵隊(勅令・軍令)				⑩
古仁屋	瀬久井	奄美大島要塞歩兵第19部隊		春田隊・約350名	昭和16年度	①⑩
古仁屋	瀬久井	奄美大島要塞歩兵第28中隊		西部第19部隊・中隊長東陸軍中尉(典拠⑤)・中隊長春田陸軍中尉以下120名(典拠①)	昭和16年9月編成	①②④
古仁屋		奄美大島要塞歩兵第119部隊		春田隊(約120名)	昭和16年度	①
古仁屋	大湊	奄美大島要塞無線通信隊			昭和16年度	①
古仁屋		奄美大島要塞通信隊			昭和16年9月	④
古仁屋		陸軍無線通信隊				⑩
古仁屋		陸軍無線有線通信隊				⑩
古仁屋		第32軍航空情報隊		隊長江頭千年陸軍少尉	昭和18年度	①
古仁屋		陸軍船舶部隊気象班		隊長谷口勝久陸軍中尉(暁部隊)	昭和18年度	①⑩
古仁屋		兵器廠船舶工兵第26連隊第3中隊1小隊(暁部隊)		球第16744部隊・隊長篠田直也陸軍少尉	昭和19年10月ごろ	①②⑩
古仁屋		船舶忠勇隊(救難隊)			昭和19年度	①⑬
古仁屋		大本營陸軍部特務隊第2特務班		隊長石井直行陸軍中尉	昭和19年度	①
古仁屋	キャンマ山	特設警備第222中隊		球第7077部隊・中隊長久保井米陸軍中尉・126名	昭和19年度	①②⑬
古仁屋		特設水上勤務第102中隊		球第8885部隊・中隊長田中良男陸軍中尉・736名	昭和19年度	①⑬
古仁屋		独立混成第22連隊第7中隊		球第7154部隊・隊長大石洋陸軍中尉	昭和19年10月ごろ	①②
古仁屋		陸上勤務第71中隊		隊長関仁太郎陸軍中尉	昭和19年度	①
古仁屋		重砲兵第6連隊		「奄美大島要塞重砲兵連隊」を改称・球2740部隊・連隊長宮内陽輔陸軍大佐(昭和19年7月より末松五郎陸軍中佐)昭和19年3月に沖縄に第32軍(球軍)創設、奄美大島要塞各部隊もその下に編入される	昭和19年5月15日改称	②⑤
古仁屋		沖縄憲兵古仁屋分遣隊		10名	昭和20年8月	②⑬
古仁屋		船舶気象隊古仁屋班		谷口勝久陸軍中尉	昭和20年8月	②⑤
古仁屋		船舶通信独立第2大隊第2中隊第3小隊		小隊長嘉納大信陸軍少尉	昭和20年8月	②⑬
古仁屋		陸軍要塞電波警戒隊				⑩
古仁屋			軍用棧橋(大湊地先)	軍用物資・船舶繋留	大正12年度	①⑩
古仁屋			司令部専用船・鳴丸	砲台監視連絡船(鉄鋼船)	大正12年度	①
古仁屋	瀬久井		兵舎5棟(バラック)	医務室・衛兵所・練兵場	昭和16年度	①
古仁屋	現古仁屋中学校		奄美大島陸軍病院	球第2782部隊・病院長永田一男軍医少佐	昭和16年9月編成	②④⑬
古仁屋			船舶砲兵団司令部の出張所	隊長花里博陸軍少尉	昭和19年度	①
古仁屋			第32軍野戦貨物廠古仁屋出張所	20名	昭和20年8月	①②⑤⑬
古仁屋			第32軍野戦兵器廠古仁屋出張所	20名	昭和20年8月	①②⑤⑬
古仁屋			第7野戦船舶廠古仁屋出張所	村田義一陸軍少尉・20名	昭和20年8月	①⑤⑬

古仁屋			第7船舶輸送司令部沖繩支部古仁屋出張所	筑瀬猛陸軍少尉・30名	昭和20年8月	②⑬
古仁屋			機銃砲台	海軍所属	昭和20年	⑩⑭
古仁屋(高知山)		高射砲小隊		小隊長船間満蔵陸軍少尉	昭和16年10月ごろ配備	②④
古仁屋(高知山)		重砲兵第6連隊本部		隊長末松五郎陸軍中佐・高知山を背に部隊本部、西側1kmに部隊無線班、東側500mに軍無線基地(典拠⑬)	昭和19年高地山へ移動	②⑩⑬
古仁屋(高知山)		重砲兵第6連隊第3中隊		浜田光保大尉・38式野砲2門・重砲兵第6連隊の最終配備	昭和19年	②⑩
古仁屋(高知山)		特設防衛通信隊		暗号班10名・有線班10名・無線班20名	昭和20年3月29日配属	⑬
古仁屋(高知山)		独立混成第22連隊第7中隊		大石隊・220名(内現地召集兵約40名)		⑩
古仁屋(高知山)			高射砲台	10cm高射砲2門(典拠②)迎撃陣地・監視所・軍道(典拠①)	昭和16年9月設置・昭和17年9月撤去	①②④⑤⑩
古仁屋(高知山)			複郭陣地		昭和19年	②
古仁屋(高知山)			機関砲			⑩
古仁屋(高知山)			機銃陣地			⑩
古仁屋(高知山)			洞窟陣地			⑩
古仁屋(高知山)			野砲陣地			⑩
清水	海岸・山腹一帯		迎撃陣地	米軍上陸への備え	昭和20年度	①
節子		陸軍球第2740部隊		補見隊長以下約30名	昭和19年度	①⑩
節子	海岸・山腹一帯		迎撃陣地		昭和19年度	①
蘇刈	蘇刈部落裏側の山地		複郭陣地		昭和19年度	②
蘇刈	海岸・山腹一帯		迎撃陣地	米軍上陸への備え	昭和20年度	①
手安	南大島自動車学校裏山麓		陸軍弾薬庫	3基・附属建物数棟	昭和7年構築(典拠:現地案内板)	①②⑩
手安			衛兵所	瀬久井歩兵19部隊より派遣	昭和5年度	①⑩
手安			弾薬庫監視員官舎	要塞司令部より陸軍曹長駐在	昭和5年度	①
手安			工廠			⑩
手安			兵舎			⑩
手安(須手)		第951海軍基地航空隊古仁屋派遣隊		隊長石川正海海軍航空大尉	昭和18年3月配置	①②⑤⑩
手安(須手)		沖縄海軍航空隊古仁屋派遣隊			昭和19年4月設置	⑬
手安(須手)		海軍大島防備隊分遣隊		瀬相の海軍防備隊本部より派遣		⑩
手安(須手)			海軍航空隊古仁屋基地	通信所・兵舎・地下施設・高射機関砲陣地(4箇所)・医務室・施設部・掩体壕・指揮所・スリッパ・弾薬庫(典拠⑪)	昭和15年建設	①⑨⑩⑪
手安(須手)	下間崎ほか		対空機銃陣地	3ヶ所(典拠⑩)	昭和18年度	①⑩
手安(須手)			防空壕	昭和19年の兵舎焼失後は兵舎として使用	昭和18年度	①
手安(須手)			揚陸用滑走路	水上機引揚用	昭和18年度	①
手安(須手)	伊須湾奥、阿木名川上流		複郭陣地	第951海軍基地航空隊古仁屋派遣隊が移駐	昭和20年6月ごろ	⑤
手安(須手)			水上偵察機			⑩
手安(須手)			探照灯			⑩
油井	学校・集会場	防衛隊(現地召集)		60名	昭和18年度	①⑩
油井		油井岳2740部隊		隊長大石陸軍中尉・典拠⑩では「砲部隊」	昭和18年度	①⑩
油井			海軍爆撃機待機基地		昭和18年度	①⑩
油井	油井岳		高射砲台	兵舎・軍道・将兵駐屯	昭和18年度	①
ホノホシ			カノン砲台陣地	陸軍所属	昭和19年	②⑩
ホノホシ			迎撃陣地	敵の上陸への備え	昭和20年度	①
ホノホシ			散兵壕	敵の上陸への備え	昭和20年度	①
ホノホシ			機銃陣地			⑩

西方地区

所在集落	所在地詳細	部隊	施設	備考	文献初出年	典拠
久慈	久慈湾		軍港	明治初めごろから軍港扱い		①
久慈	海岸(現存)		海軍給水タンク	煉瓦造り	明治44年度	①
久慈			海軍燃料補給所	兵員約10名	明治44年度	①
久慈		第44震洋隊	震洋艇格納壕	マル四特攻隊・隊長三木十郎海軍中尉・隊員180名・震洋艇約50隻	昭和20年3月配備	①②⑫

管鈍		陸軍部隊一時駐屯		西古見の兵舎完成までの約1ヶ月間、約200名が民家や集集場に仮宿	昭和19年度	①⑩
管鈍	海岸・山腹一帯		迎撃陣地		昭和20年度	①
花天	海岸・山腹一帯		迎撃陣地		昭和19年度	①
花天			特別攻撃隊海軍魚雷艇	約150名		⑩
古志		海軍駐屯		約50名		⑩
古志	山頂		高射砲台	陸軍所属・将校約45名	昭和19年度	①⑩
古志	山中		兵舎			⑩
篠川	小学校	陸軍黒木隊		約1個小隊駐屯・小学校に宿泊	昭和17年度	①
篠川			輸送艦船停泊地	陸・海軍共用	昭和17年度	①
篠川			船舶避難港			⑩
西古見		奄美大島要塞重砲兵連隊第1大隊		大隊長前田一水陸軍少佐	昭和16年9月配備	①②⑤⑧
西古見		奄美大島要塞重砲兵連隊第1大隊第1中隊		中隊長原田種文陸軍中尉	昭和16年9月配備	①⑤⑧
西古見		奄美大島要塞重砲兵連隊第2中隊		中隊長喜友名朝光陸軍大尉・昭和17年9月25日の奄美大島要塞重砲兵連隊の部隊縮小後の配備	昭和17年9月配備	①②⑤
西古見		重砲兵第6連隊第2中隊		中隊長森本松次郎大尉・重砲兵第6連隊最終配備	昭和19年	②
西古見	浦底	陸軍・海軍駐屯		一般住民立ち入り禁止		①
西古見		奄美大島要塞重砲兵連隊派遣隊第4中隊1小隊		小川隊		⑩
西古見		要塞野砲隊迫撃砲隊	野砲			⑩
西古見	池堂		陸軍独立守備隊基地(陸軍要塞)	砲台は戦後破壊、弾薬庫・兵器格納庫跡は現存	大正8年着工・大正11年完成	⑧
西古見	西古見の西北にあたる高地		西古見第1砲台	28cm榴弾砲4門・弾薬庫・繫船場・監守衛舎	大正10年9月着工	①②⑤⑥⑦⑩
西古見	第1砲台の西方約3キロの崖鼻・弾薬庫は曾津高崎灯台の地続き		西古見第2砲台	15cmカノン砲4門・観測所・弾薬庫	大正10年9月着工	①②⑤⑥⑦
西古見			砲台監守衛舎	鉄筋コンクリート2棟ほか付属建物	大正10年度	①
西古見	池堂の旧陸軍兵舎跡から曾津高崎灯台のほうへ約2kmほどのぼった途中、舗装工事された道路の海側・マンガン山の上		掩蓋式観測所	典拠①⑥⑧では「監視所」、正式名称「掩蓋式観測所」(篠崎達男氏より徳永茂二氏宛書簡による)	大正12年度	①⑥⑧
西古見			軍用棧橋	鳴丸繫船・物資揚陸用	大正12年度	①
西古見	山麓のワカ坑左		弾薬庫	兵器廠・地雷	大正12年度	①
西古見			探照灯		昭和16年度	①⑩
西古見	車崎地区		38式野砲2門		昭和19年	②
西古見	西古見砲台近く		複郭陣地		昭和19年	②
西古見			92式水中聴音遠操機雷		昭和20年度	①
西古見			防潜網		昭和20年度	①
西古見	曾津高崎山頂		海軍電波探知機	灯台近くに兵舎があった。貯水タンク現存	昭和20年度	①⑥⑧
西古見			官舎			⑩
西古見	陸軍要塞北側の山中・地元で「キュラヤマ」と呼んでいる山の中腹あたり		大尉壕・准尉壕	現存するが大尉壕の入口が埋まっている		⑥⑧
西古見	池堂の旧陸軍兵舎跡を戸倉山のほうへ約80mの左側、山手のほう		弾薬庫			⑥⑩
西古見			兵器廠			⑩
西古見			兵舎			⑩
西古見			砲台陣地			⑩
西古見	池堂		陸軍兵舎跡			⑥
西古見(曾津高)			特設見張所	大島護衛部隊(海軍)所属・下士官3名・兵6名	昭和18年度	①③⑭⑩
西古見(曾津高崎)			特設防備衛所	海軍所属・将兵約20名・92式水中聴音遠操機雷・防潜網	昭和18年度	①③⑩⑭
西古見(曾津高)			海軍電波探知機			⑩

実久地区

所在集落	所在地詳細	部隊	施設	備考	文献初出年	典拠
阿多地		海軍防備隊派遣隊		中村隊・将兵約50名	昭和19年度	①⑩
阿多地	海岸一帯・岬・山腹		迎撃陣地		昭和19年度	①
乙崎		宮本隊		下士官5名・兵45名	昭和18年度	①
乙崎		出口隊			昭和18年度	①
乙崎			機銃砲台	海軍所属	昭和18年度	①⑩⑭
乙崎			高射砲台		昭和18年度	①③
乙崎			見張所	海軍所属	昭和20年	①⑩⑭
嘉入		川村隊・木吉隊		下士官5名・兵49名	昭和19年度	①
嘉入			仮兵舎	茅葺	昭和19年度	①
嘉入			探照灯	海軍所属	昭和19年度	①
嘉入			平射砲台	海軍所属	昭和19年度	①⑩⑭
嘉入	海岸・山腹一帯		迎撃陣地		昭和19年度	①
木慈		陸軍監視隊				⑩
木慈			海軍採石場	施設構築用材として珪岩を採石	昭和17年度	①
実久		奄美大島要塞重砲兵連隊第1大隊第2中隊		中隊長黒葛清治陸軍中尉	昭和16年10月ごろ配備	①②⑤
実久		奄美大島要塞重砲兵連隊第1中隊		中隊長黒葛清次陸軍大尉・昭和17年9月25日の奄美大島要塞重砲兵連隊の部隊縮小後の配備	昭和17年9月配備	①②⑤
実久		重砲兵第6連隊第1中隊		黒葛清次大尉・重砲兵第6連隊最終配備	昭和19年	②
実久		照空隊		海軍所属	昭和20年	⑭
実久		第1大隊		大隊長前田一水陸軍少佐		①
実久		第3中隊				①
実久			実久砲台	15cmカノン砲4門・観測所・繫船場・弾薬庫・看守衛舎など	大正10年8月着工	①②⑤⑦
実久	山頂		弾薬庫	2ヶ所	大正10年度	①
実久			砲台監守衛舎	鉄筋コンクリート造り・陸軍下士官常時駐在	大正10年度	①
実久			要塞砲・カノン砲	第2中隊の装備・要塞砲2門・カノン砲2門	大正10年度	①
実久			陸軍軍用棧橋	司令部所属船鳴丸他軍用艦艇用	大正10年度	①
実久			探照灯台	2台・海軍防備隊派遣隊・加治兵曹長他26名	昭和18年度	①
実久	実久砲台の固定砲の近く		複郭陣地		昭和19年構築	②
実久			軍用道路	軍用棧橋から山頂砲台まで		①
実久(江仁屋)		対潜防備隊		実久電波探知機	昭和18年度	①
実久(江仁屋)		海軍防備隊派遣隊		大森隊・水中聴音機・92式水中聴音遠操機雷・防潜網	昭和19年度	①⑩
実久(江仁屋離)			江仁屋離砲台	7cmカノン砲2門・観測所・監守衛舎(典拠⑧)15cmカノン砲4門(典拠①)兵舎・弾薬庫。軍用棧橋(典拠⑩)昭和19年撤去(典拠②)	大正10年10月着工	①②⑤⑦⑩
実久(江仁屋)			防備衛所	将兵約20名	大正11年度	①②③
実久(江仁屋)			高角砲台	石井大尉他約40名・平射砲台兵員15名	昭和17年度	①
実久(江仁屋)			高射砲台	橋本少尉他約30名	昭和17年度	①③⑩⑭⑮
実久(江仁屋)			弾薬庫		昭和17年度	①
薩川		防衛隊(現地召集)			昭和19年度	①
薩川			軍港	南進基地・艦隊泊地指定	明治41年度	①⑩
薩川	後方山頂		迫撃砲台陣地		昭和18年度	①
芝		防衛隊(監視隊)(現地召集)			昭和19年度	①
芝	海岸線一帯		迎撃陣地		昭和19年度	①
芝			高射砲陣地	武田隊構築		⑩
須子茂		迫撃砲小隊				③
須子茂			平射砲台	海軍防備隊派遣隊・中村兵曹長他約32名駐屯	昭和19年度	①③⑩⑭
須子茂			迎撃陣地	渡辺兵曹長他約47名	昭和19年度	①
須子茂			探照灯台		昭和19年度	①
須子茂	海岸・道路		(地雷敷設)		昭和19年度	①

須子茂			兵舎	4棟		⑩
瀬相		大島根拠地隊		大島防備隊・海軍通信隊	昭和16年9月編成・昭和17年1月廃止	⑬
瀬相		大島防備隊		司令谷口秀志海軍大佐・昭和20年4月15日に「大島方面隊」に改称	昭和16年	①②⑤⑩⑭
瀬相		海軍通信隊		迫撃砲台・高射砲台・平射砲台	昭和16年	①②⑩⑭
瀬相		近藤部隊・飯島隊・西泉隊・中目隊ほか			昭和16年度	①
瀬相		照空隊			昭和16年度	①
瀬相		第17号大島輸送隊			昭和16年度	①
瀬相		大島附近防備部隊			昭和17年1月	⑭
瀬相		大島方面隊		「大島防備隊」を改称・司令長官加藤唯男海軍少将	昭和20年4月15日改称	⑤⑬
瀬相		大島護衛部隊	大島護衛部隊本部		昭和20年4月	⑭
瀬相		迫撃砲小隊				③
瀬相			海軍病院		昭和16年度	①
瀬相			艦船用給水ダム		昭和16年度	①
瀬相			艦艇	駆逐艇5艇・掃海艇・監視艇・敷設艇	昭和16年度	①
瀬相			機銃砲台	7基・照空隊の装備	昭和16年度	①⑩
瀬相			高角砲台	照空隊の装備	昭和16年度	①
瀬相			壕内指揮所・見張所	海軍佐藤参謀	昭和16年度	①
瀬相			防備衛所		昭和16年度	①
瀬相			兵舎		昭和16年度	①
瀬相			見張所		昭和20年	⑭
瀬相			海軍防空見張所			⑩
瀬相			高射砲台	海軍所属	昭和20年	③⑩⑭⑮
西阿室		海軍機銃砲隊		宮本隊・壕構築・地雷敷設	昭和19年度	①⑩
西阿室		海軍防備隊派遣隊高射砲隊		米田海軍少尉他約48名	昭和19年度	①⑩
西阿室		機雷敷設隊		瀬相の海軍防備隊本部より派遣	昭和19年度	①
西阿室		迫撃砲小隊				③
西阿室	海岸・山腹一帯		迎撃陣地		昭和19年度	①
西阿室	山頂		高角砲台		昭和19年度	①
西阿室	ワキン丘の上		対空機関砲台		昭和19年度	①
西阿室	海岸道路一帯		(地雷敷設)		昭和19年度	①
西阿室	山頂		機銃砲台			⑩
西阿室	西阿室港口		(機雷敷設)			⑩
俵		海軍防備隊(森山隊・石井隊・林隊)		瀬相の海軍防備隊本部より派遣	昭和19年度	①⑩
俵			機銃砲台	海軍所属	昭和20年	⑩⑭
俵			兵舎			⑩
俵			糧秣倉庫			⑩
平松山		横川部隊		横川海軍中尉・伊藤海軍兵曹長	昭和19年度	①
平松山		海軍派遣隊				⑩
平松山			軍用栈橋	木造	昭和19年度	①
平松山			高射砲台	海軍所属	昭和19年度	①③⑩⑭
平松山			機銃陣地			⑩
平松山			防空見張所			⑩
三浦		海軍設営隊	海軍設営隊本部	将兵約60名	昭和16年度	①⑩
三浦			艦船用給水ダム	サキバルの岸壁まで導水管敷設	昭和16年度	①
三浦			高射砲台		昭和16年度	①③
三浦			兵舎・徴用工宿舎		昭和16年度	①
三浦		第17震洋隊	震洋艇格納壕	総員185名(士官7名・本部員13名・搭乗員50名・整備隊員43名・基地隊員72名・震洋艇(一型)53隻)(典拠⑫)	昭和19年11月21日配備	①②⑤⑫
三浦			燃料備蓄補給基地		昭和20年度	①

鎮西地区

所在集落	所在地詳細	部隊	施設	備考	文献初出年	典拠
秋徳	海岸・山腹・山頂一帯		迎撃陣地		昭和18年度	①
秋徳	海岸・山腹・山頂一帯		複郭陣地		昭和18年度	①
秋徳 (サキニ)		海軍防備隊秋徳派遣隊		将兵約50名駐屯・典拠⑩では海軍対潜監視隊	昭和18年度	①⑩
秋徳 (サキニ)		防備隊(現地召集)		現地部隊に編入	昭和18年度	①
秋徳 (サキニ)			平射砲台	海軍所属	昭和20年	③⑭
池地		防衛隊(現地召集)		請阿室部隊・道路に地雷敷設	昭和19年度	①⑩
池地	道路		(地雷敷設)		昭和19年度	①
伊子茂		海軍防備隊派遣隊		約60名		

伊子茂			迎撃陣地		昭和19年度	①
伊子茂	伊子茂港入口		(機雷敷設)			⑩
請阿室		海上監視隊		海軍防備隊派遣隊秋徳対潜監視隊より2、3名派遣・交代勤務	昭和19年度	①⑩
請阿室		防衛隊(現地召集)		監視隊に編入、敵潜監視	昭和19年度	①
請阿室	道路		(地雷敷設)		昭和19年度	①
於齊		海軍派遣工作隊		瀬相-於齊間トンネル建設・約20名	昭和19年度	①⑩
於齊		機雷敷設隊		海軍派遣隊約20名	昭和19年度	①
於齊		迫撃砲小隊			昭和19年度	①③
於齊	海岸線一帯		対戦車壕		昭和19年度	①
於齊			(地雷敷設)		昭和19年度	①
勝能			高射砲陣地	海軍所属・将兵約50名	昭和19年度	①
花富		海軍防備隊派遣隊		約3個分隊・将兵約60名	昭和19年度	①
花富	伊子茂小学校	防衛隊(現地召集)		伊子茂小学校、民家に宿泊	昭和19年度	①
花富			迎撃陣地	米軍上陸への備え	昭和19年度	①
佐知克			迎撃陣地		昭和19年度	①
佐知克	海岸・岬一帯		散兵壕		昭和19年度	①
佐知克			対戦車壕		昭和19年度	①
諸数(スリ浜)		海軍通信隊			昭和19年度	①⑩
諸数(スリ浜)			機銃陣地	海軍所属		⑩
諸鈍		軍用道路構築派遣隊		陸軍2719部隊より派遣	昭和17年度	①
諸鈍		諸鈍湾機雷敷設隊	(機雷敷設)	海軍将兵約20名	昭和19年度	①⑩
諸鈍		防衛隊(現地召集)		現地部隊に編入	昭和19年度	①
諸鈍		海軍防備隊派遣隊第4中隊		小口隊		⑩
諸鈍		迫撃砲小隊				③
諸鈍		陸軍部隊派遣隊第3中隊		宮原隊・約40名		⑩
諸鈍			陸軍野砲砲台陣地	陸軍2740部隊より派遣	昭和17年度	①
諸鈍	海岸・山腹		迎撃陣地		昭和18年度	①
諸鈍			迫撃砲台陣地	隊長山下海軍兵曹長他48名	昭和18年度	①
諸鈍	海岸・山腹		複郭陣地		昭和18年度	①
諸鈍(徳浜)		奄美大島要塞重砲兵連隊第2大隊第5中隊		中隊長小口敏之陸軍中尉	昭和16年10月ごろ配備	①②⑤
諸鈍(徳浜)		要塞重砲兵連隊			昭和18年度	①
諸鈍(徳浜)		要塞野砲隊派遣隊	砲台・兵舎			⑩
諸鈍(徳浜)	海岸・山腹一帯		迎撃陣地		昭和19年度	①
諸鈍(徳浜)	海岸・山腹一帯		複郭陣地		昭和19年度	①
勢里	海岸・岬一帯		散兵壕		昭和19年度	①
渡連			軍馬揚陸休養地			⑩
渡連(安脚場)		奄美大島要塞重砲兵連隊第2大隊		大隊長岩本儀助陸軍少佐	昭和16年10月ごろ配備	①②⑤
渡連(安脚場)		奄美大島要塞重砲兵連隊第2大隊第4中隊		中隊長浜田光保陸軍中尉	昭和16年10月ごろ配備	①②⑤
渡連(安脚場)		奄美大島要塞重砲兵連隊第3中隊		中隊長浜田光保陸軍中尉・昭和17年9月25日の奄美大島要塞重砲兵連隊の部隊縮小後の配備	昭和17年9月配備	②⑤
渡連(安脚場)		海軍防備隊派遣隊				⑩
渡連(安脚場)		要塞重砲兵連隊大隊本部派遣隊		官舎・兵舎・弾薬庫・観測所・探照灯・陸軍特設見張所・カノン砲・機関砲陣地		⑩
渡連(安脚場)			安脚場砲台	15cmカノン砲4門・観測所・繫船場・弾薬庫・看守衛舎など(典拠⑦)	大正10年7月着工・昭和19年撤去	①②⑤⑦
渡連(安脚場)			砲台監守衛舎	陸軍下士官が常時駐在	大正10年度	①
渡連(安脚場)			弾薬庫	要塞重砲兵第4中隊の装備・弾薬庫2箇所	大正9年ごろ設置(典拠:現地案内)	①
渡連(安脚場)			貯水池	要塞重砲兵第4中隊の装備・貯水池3箇所	昭和16年度	①
渡連(安脚場)			掩蓋式観測所	要塞重砲兵第4中隊の装備・典拠①では「監視所」、正式名称「掩蓋式観測所」(篠崎達男氏より徳永茂二氏宛書簡による)	昭和16年度	①
渡連(安脚場)			海軍電波探知器			⑩
渡連(安脚場)			探照灯			⑩
渡連(カネンテ崎)		機雷敷設隊		92式機雷・水中聴音機・監視所	昭和19年度	①

渡連 (カネンテ崎)		海軍特設防備衛所	大島護衛部隊(海軍)所属・ 海軍有賀少尉他約23名・聴 音器3基・92機雷8群	昭和16年構築(典 拠:現地案内板)	①③⑩⑭
渡連 (カネンテ崎)		平射砲台	海軍所属・海軍後藤少尉他 約78名	昭和17年度	①③⑩⑭
渡連 (カネンテ崎)		探照灯台		昭和19年度	①
渡連 (待網崎)		海軍防備隊派遣隊	隊長斎藤海軍中尉・約70名	昭和18年度	①⑩
渡連 (待網崎)		高射砲台	海軍所属	昭和18年度	①③⑭⑮
渡連 (待網崎)	渡連山頂	対空高角砲陣地	海軍所属	昭和19年度	①⑩
渡連 (待網崎)		探照灯台	海軍高木少尉	昭和19年度	①⑩
渡連 (待網崎)		兵舎	2棟・将校2名・下士官16名・ 兵89名	昭和19年度	①
呑之浦	第18震洋隊		隊長島尾敏雄海軍中尉・隊 員183名・震洋艇52隻	昭和19年11月21日 配備	①②⑤⑩ ⑫
呑之浦		震洋艇格納壕	○四艇52隻・両岸に壕12	昭和19年度	①⑩
呑之浦		兵舎・練兵場		昭和19年度	①⑩
野見山	海軍防備隊野見山派遣隊		約17名・兵舎・軍道・将兵駐 屯7名	昭和18年度	①⑩
野見山	防衛隊(現地召集)		部隊に編入・陣地構築	昭和18年度	①
野見山		迎撃陣地		昭和18年度	①
野見山		複郭陣地		昭和18年度	①
与路	海軍奄美大島防備隊		瀬相の海軍防備隊本部より 派遣	昭和19年度	①
与路	海軍与路島派遣隊		下士官7名・兵48名	昭和19年度	①
与路	防衛隊(現地召集)			昭和19年度	①⑩
与路	海軍防備隊派遣隊砲隊		上前田隊		⑩
与路	照空隊		奥隊		⑩
与路		探照灯台	隊長上前田兵曹長・松崎兵 曹長	昭和19年度	①⑩
与路		弾薬庫		昭和19年度	①⑩
与路		発電所		昭和19年度	①⑩
与路		兵舎	3棟	昭和19年度	①
与路		平射砲台	海軍所属	昭和19年度	①③⑩⑭

奄美大島の他地域に配備された部隊

所在集落	所在地詳細	部隊	施設	備考	文献初出年	典拠
宇検村屋鈍		奄美大島要塞重砲兵連隊第1大 隊第3中隊		中隊長葉山陸軍中尉	昭和16年10月ごろ 配備	②⑤
宇検村屋鈍			38式野砲4門		昭和16年・昭和17 年9月撤去	⑤
		第32軍航空情報隊第2電波警戒 隊		球第19564部隊・隊長江頭千 年陸軍少尉・30名	昭和20年8月	②⑬
		電信第36連隊無線小隊の1個分 隊			昭和20年8月	②
笠利町		特設警備第220中隊		球第7075部隊・中隊長原田 輝夫陸軍中尉	昭和20年8月	②⑬
名瀬市		特設警備第221中隊		球第7076部隊・中隊長黒木 安見陸軍大尉	昭和20年8月	②⑬

表作成 河津 梨絵

【注】典拠欄の記号は以下の文献を示している。

- ① 屋崎一『大島海峡周辺における軍事施設及び装備概況(戦争記録)』(1995)
- ② 篠崎達男『大東亜戦争中、奄美大島に於ける陸海軍の戦備と戦いの記録』(1998)
- ③ 『大東亜戦争中、奄美大島に於ける陸海軍の戦備と戦いの記録』巻末収録資料
- ④ 篠崎達男「奄美大島要塞について」(『しまがたれ』第9号 しまがたれ同好会 2000)
- ⑤ 篠崎達男「大東亜戦争中における奄美守備隊の回顧」(『しまがたれ』第7号 しまがたれ同好会 1999)
- ⑥ 『平成八年 西方地区現地調査報告書～西古見・管鈍・花天～』瀬戸内町文化財保護審議会(1996)
- ⑦ 浄法寺朝美『日本築城史』原書房(1971)
- ⑧ 西古見慰霊碑建立実行委員会『西古見集落誌』西古見慰霊碑建立実行委員会(1994)
- ⑨ 『平成9年度 文化財会報』瀬戸内町文化財保護審議会(1998)
- ⑩ 「瀬戸内町内における旧陸・海・空の軍事施設及び部隊の駐屯並に空襲被害概要」
(屋崎一編『わが町の戦中戦後を語る』瀬戸内町中央公民館 1989)
- ⑪ 梶山瑞雲『瑞雲飛翔 第六三四海軍航空隊水爆瑞雲隊・戦闘記録・私記』(2002)
- ⑫ 木俣滋郎『日本特攻艇戦史 震洋・四式肉薄攻撃艇の開発と戦歴』光人社(1998)
- ⑬ 特設防衛通信隊記念誌新版下編集委員会『記録のない過去 特設防衛通信隊記念誌』特設防衛通信隊記念誌頒布委員会(2000)
- ⑭ 防衛庁防衛研究所戦史室『沖縄方面海軍作戦』朝雲新聞社(1968)
- ⑮ 防衛庁防衛研究所戦史室『沖縄方面陸軍作戦』朝雲新聞社(1968)